

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

1. 研究課題名	自己血輸血が肝門部領域胆管癌手術の短期および長期予後に及ぼす影響			
2. 対象患者	1999年1月から2020年3月までの期間に、弘前大学医学部附属病院において手術を行った肝門部領域胆管癌患者さんが対象です。			
3. 対象となる期間	1999年から2020年3月まで			
4. 実施診療科等	医学部附属病院消化器外科、大学院医学研究科消化器外科学講座			
5. 研究責任者	氏名	木村 憲央	所属	医学部附属病院小児外科
6. 研究の意義	肝門部領域胆管癌は予後不良な癌種であり、腫瘍が肝門部という肝臓の出口の胆管に存在することから、根治切除には大量肝切除を伴った胆管切除、もしくは肝臓同時切除を伴う高侵襲手術が必要となります。そのため、術中出血量も多く、それに伴い輸血を必要とすることもあります。一方で、癌手術において輸血は、患者様の免疫機構を低下させ、術後合併症や癌の再発を増加させると言われております。従って、当院では大量出血が予想される手術では、積極的に「術直前希釈式自己血輸血」という、術直前に患者様の自己血を採取した後に、代用血漿剤を輸液することで血液を希釈状態にして循環血液量を保ち、手術終了前後に患者様へ自己血を返血する方法を導入し、術中他家血輸血の回避に努めております。しかしながら、自己血輸血の安全性や長期生存に及ぼす影響の全貌は明らかにされていないのが現状であります。本研究は肝門部領域胆管癌症例の周術期情報を検証することで、自己血輸血が及ぼす安全性および長期予後への影響の解明に寄与できると考えております。			
7. 研究の目的	肝門部領域胆管癌手術での自己血輸血が予後に及ぼす影響を明らかにします。			
8. 研究の方法 (使用する資料等)	過去の診療データ(既存情報)を使用する研究であり、患者様に新たな負担や費用が生じることはございません。既存情報は診療録を利用して収集し、病歴、年齢、性別、身長、体重、血液検査所見などの術前情報、手術術式、合併切除臓器、出血量、輸血、病理組織診断などの手術関連情報、合併症、経過などの術後情報を使用します。			
9. 個人情報の保護	対象者のプライバシーに十分配慮し、情報の漏洩防止に努めます。調査結果については研究目的以外に使用することはありません。データは弘前大学医学部附属病院消化器外科ならびに大学院医学研究科消化器外科学講座内でのみ管理し、対象者の個人情報は外部に漏らすこととはございません。研究内容と連絡先を当科ホームページに公開し、対象者の参加撤回の自由を確保します。			
10. 利益相反に関する状況	本研究における利益相反はございません。			
11. 問い合わせ先	〒036-8562 弘前市在府町5 弘前大学医学部附属病院 小児外科 木村 憲央 メールアドレス: norihisa@hirosaki-u.ac.jp			
	電話	0172-39-5079	FAX	0172-39-5080

提出先

医学部附属病院 総務課

総務グループ 総務・広報担当

E-mail : jm6453@hirosaki-u.ac.jp